
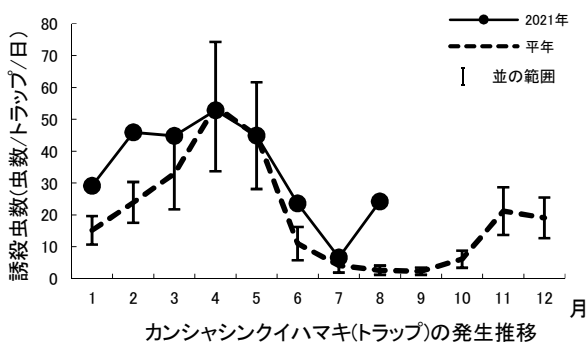


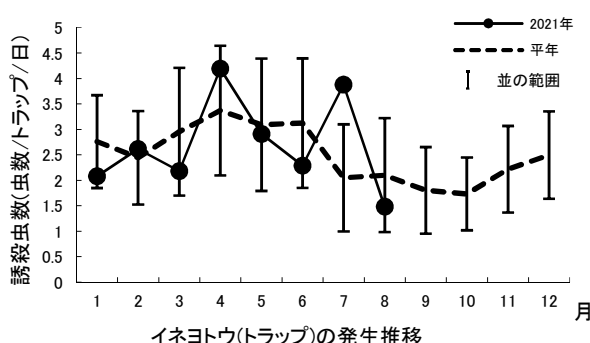
作物	さとうきび	地域	宮古群島	
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	8 月の発生量 (平年比)			やや多
予報	8 月からの増減傾向			—
	9 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

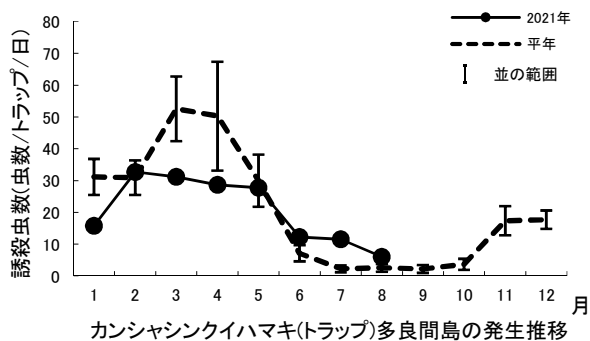
トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)




トラップ調査 (カンシャシクイハマキ) 多良間島



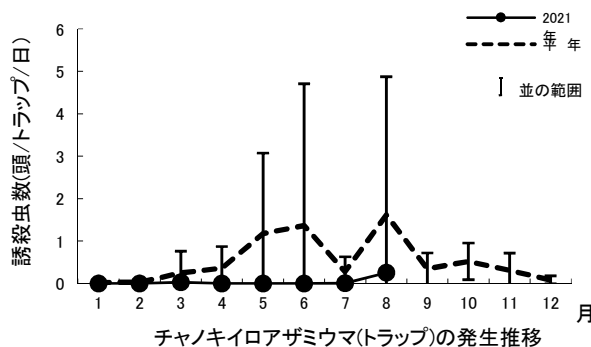
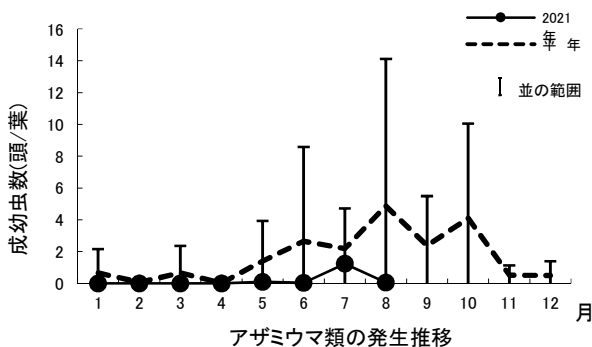
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

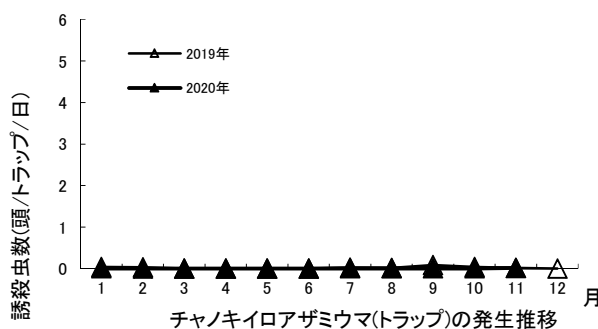
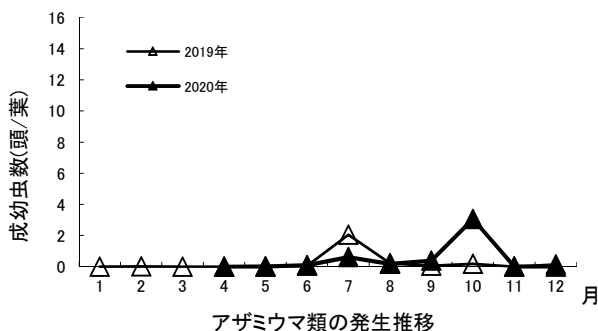
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移




・見取り調査による発生施設率：40.0%（平年値：79.2%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける

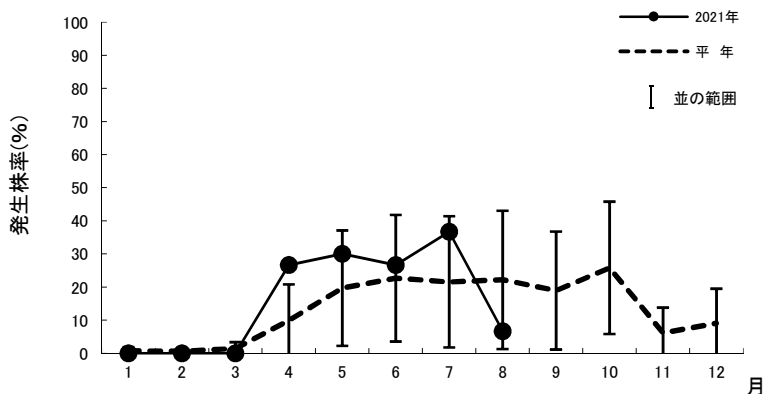


ナガエコミカンソウ

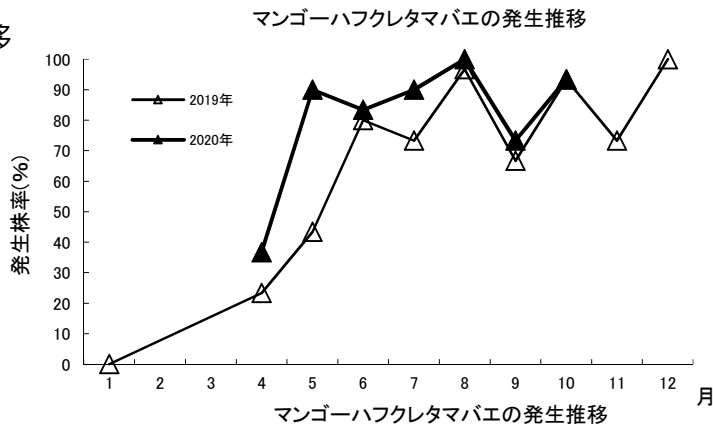
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・発生施設率：20.0% (平年値：36.7%)

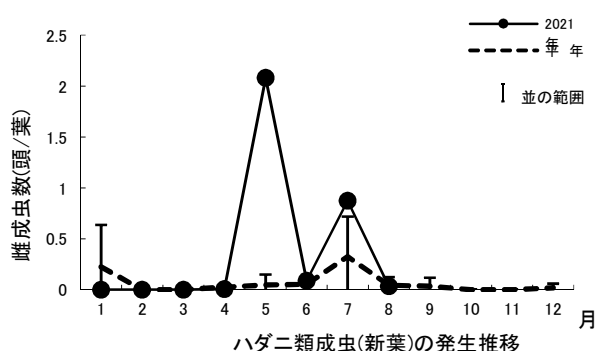
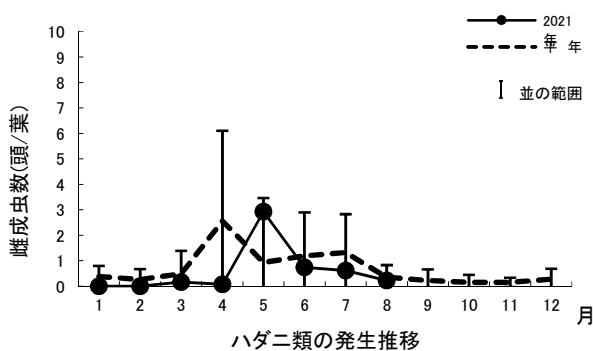
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

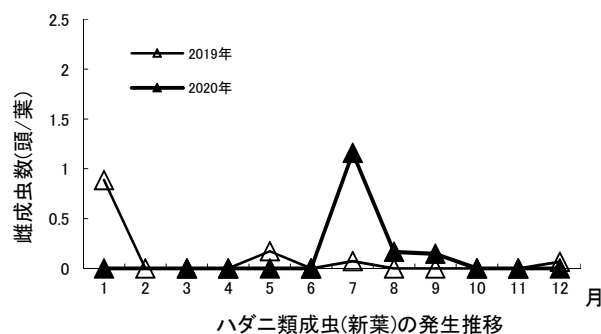
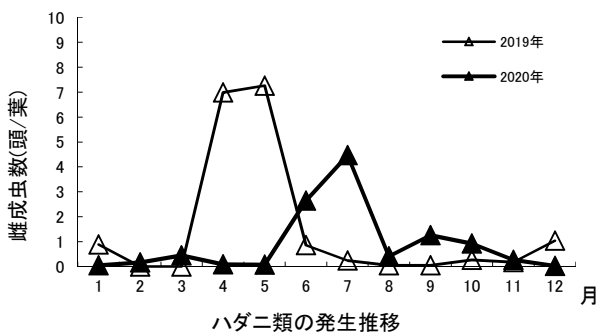
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率：40% (平年値：33.3%)

防除のポイント

- ・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症